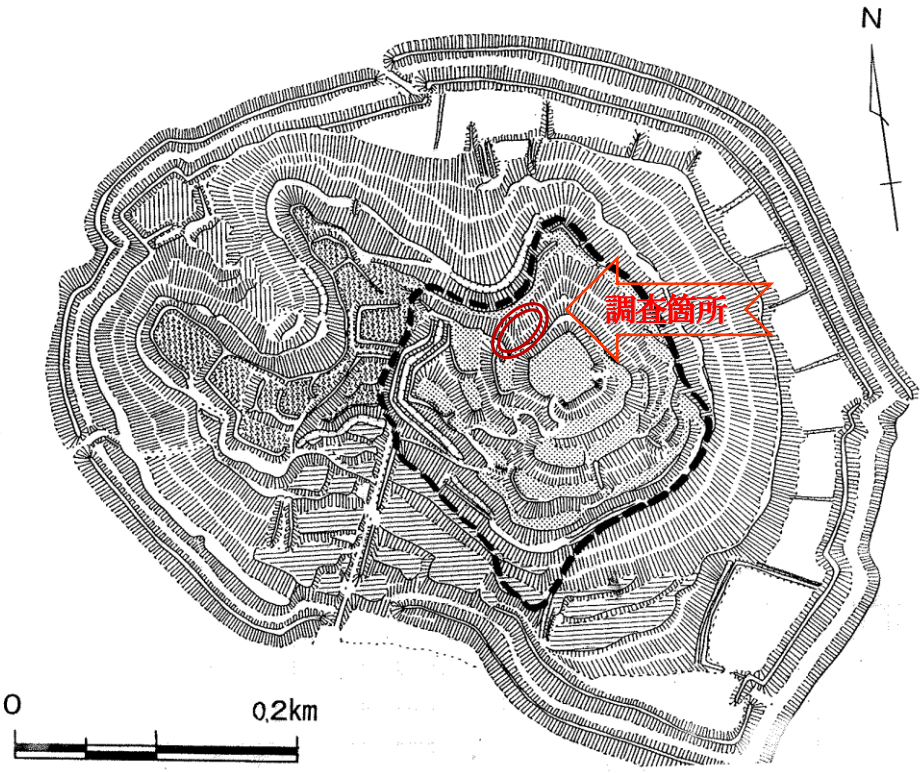
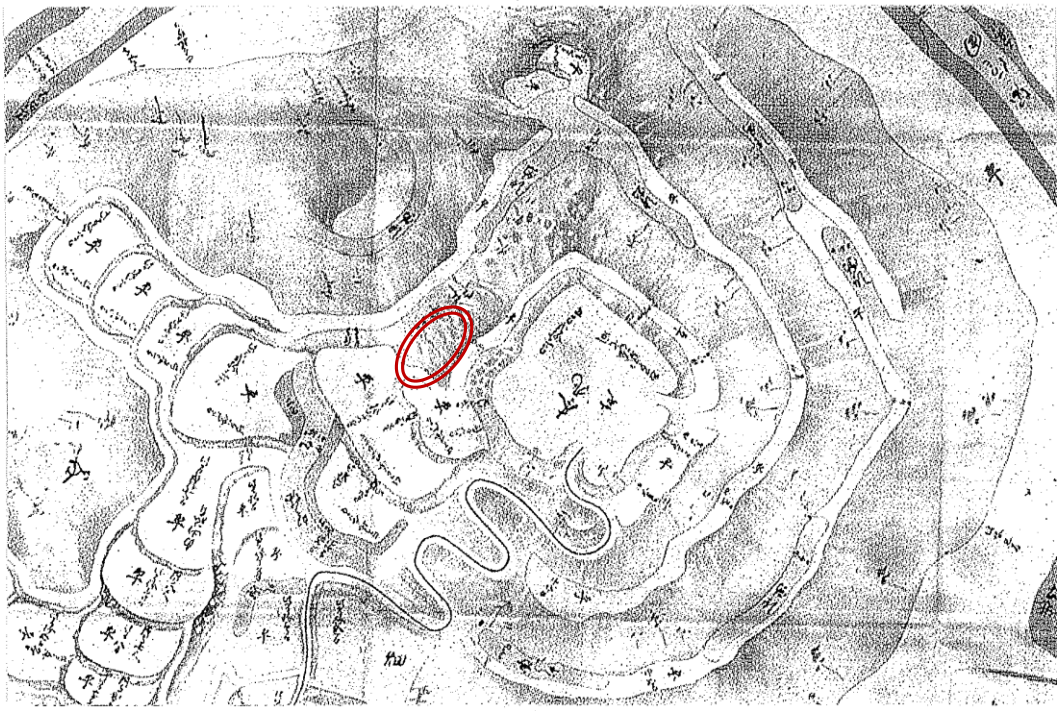
史跡小牧山発掘調査主郭地区第 10 次発掘調査
現地説明会　資料

平成２９年１１月１８日（土）　１０：３０～

小牧山城縄張図
（破線の範囲が主郭地区）



春日井郡小牧村古城絵図（部分拡大）
※十七世紀中頃　蓬左文庫蔵



遺　跡　名

小牧山城（国指定史跡　小牧山）

所　在　地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調 査 理 由

史跡整備

調 査 面 積

約１００㎡

調 査 期 間

平成２９年8月～平成２９年１１月（予定）

調 査 主 体

小牧市教育委員会

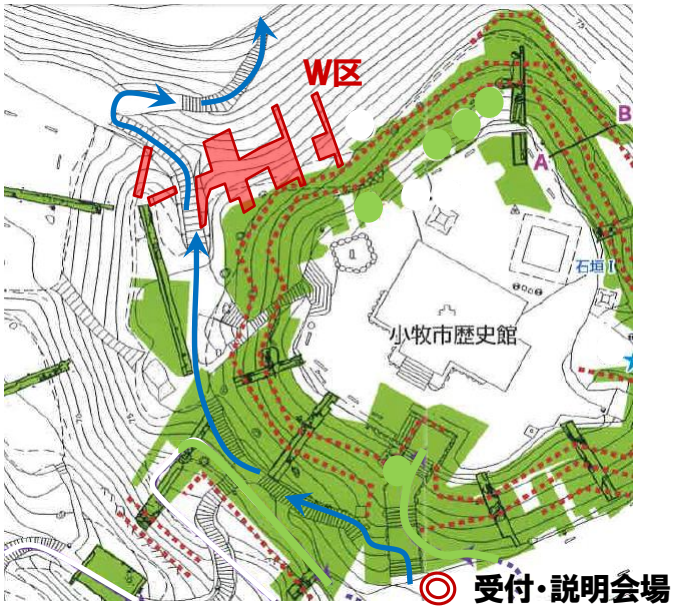


図１　調査位置（W区）と見学ルート

１　調査の概要　（何がでてきたのか）

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、４ヵ年の試掘調査と９ヵ年の発掘調査を経て、今年度が１４年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄６年（1563）に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきています。

今年度は主郭（本丸）西斜面で調査区（W区）を設定し、調査を行いました。

調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

（１）W－A区（写真１・図２）

石垣列Aを確認しました。石垣は入隅・出隅を繰り返して屈曲しており、残存延長は約7．4m、推定される高さは1～1．5mです。石垣石材は30㎝～60㎝程度の自然石（小牧山産堆積岩）を主体とする野面積ですが、一部に川原石を用いている点で主郭北～北東斜面で確認している3段目の石垣（石垣Ⅲ・写真5）と共通します。

石垣列Aには小牧山産の角礫主体の裏込石が充填されていますが、入隅を境界にして東側は層厚が薄く、少量、残存高が低いのに対し、西側の裏込石層は厚く、残存高も高いことがわかります。それに比例するように入隅より西側、つまり園路沿いの石垣石材も大型のものが用いられています。（写真1・3）

石垣列Aは、根石を土中に埋め、その上を化粧土（黄色細粒砂）で整えています。化粧土上面からは舗装のためと思われる玉砂利も出土しました。（写真4）

写真１　W－A区で確認した石垣列A

写真２　W－D区で確認した石垣列B

（２）W－B、C区（図２）

W－A区から東の調査区W－B，C区では、石垣列

Aは確認できませんでした。土砂の堆積状況の観察から、石垣列を設けていた痕跡は確認できず、山肌の土砂を掘削して急峻な斜面（切岸）を設けている状況が見られます。主郭北～北東で確認された石垣Ⅲと今回確認された石垣列Aは同一の斜面に設けられているものの一続きではないことが判明しました。

（３）Ｗ－Ｄ区（図２）

Ｗ－Ａ区での石垣列Aの確認を受けて、園路をはさんで西側に位置する曲輪 002 下の斜面においても石垣列をめぐらせていた可能性が出てきました。そのため、2本のトレンチを設定して調査を行ったところ、北面のトレンチで石垣列Bを確認しました。

写真３　石垣列Ａの裏込石充填状況

２　まとめ　（何が明らかになったのか）

主郭北西斜面で大きく張り出した石垣列A、Bを確認

小牧山城の発掘調査では、平成26年度に山頂の北側で3段目の石垣を確認し、大きな話題となりました。今回の調査区はそのときに見つかった石垣Ⅲと同一斜面の西側に位置します。地表面観察では石垣の痕跡は見当たらず、急斜面でもあることから、調査前にはこの部分に石垣の延長があるとは想定していない箇所でしたが、堆積土や転落石を取り除いたところ石垣が良好な状態で残存していることが判明しました。

石垣列A、Bの形状から、小牧山城主郭に至る未確認の出入口（虎口）を発見した可能性があります。

複雑に屈曲した石垣列は、図1のように山頂西側に展開する曲輪群から主郭に至る登城道の途上に位置し、道の両側をはさむように張り出す形状をしています。こうしたプランは石垣で画された出入口（虎口）の存在をうかがわせます。

小牧山城を築く際に主郭に入るための複雑な構造を持たせたり、外部の人間の出入りを容易にさせないような工夫を凝らしていたことがわかります。

写真４　石垣列Ａの根石と川原石、化粧土

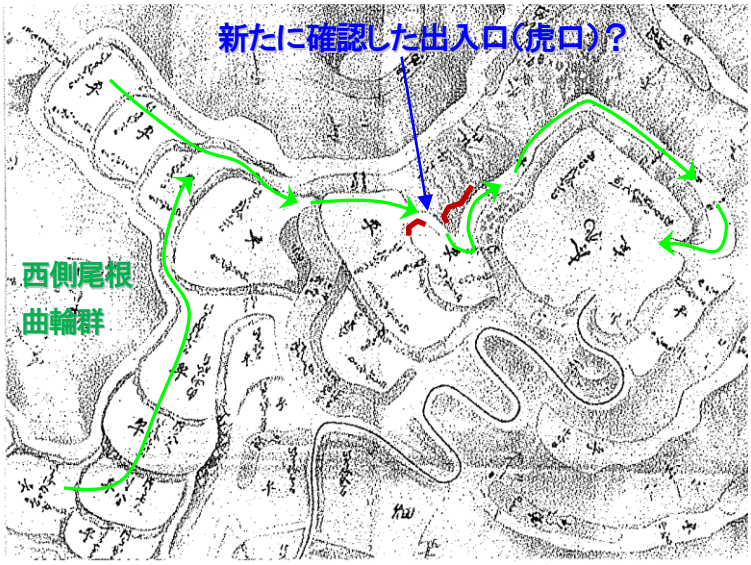
写真５　石垣Ⅲの川原石（平成 26 年度第７次調査）

付表１：小牧山の歴史

時　代	年	できごと
戦国時代	永禄　６年（1563） １０年（1567）	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。 織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正１２年（1584）	小牧・長久手の合戦 （羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い） 徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長１５年（1608）	名古屋城築城開始。小牧山城の石垣を持ち出しか？
	小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。	
明治時代	明治　２年（1869） ５年（1872） ２２年（1889）	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。 県立小牧公園として一般公開される。 小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和　２年（1927） ５年（1930） ２２年（1947） ４３年（1968） 平成１０年（1998） １５年（2003） １６年（2004） ２０年（2008）	１０月２６日　国の史跡に指定される。 徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。 東麓に小牧中学校が建設される。 山頂に小牧市歴史館が建設される。 小牧中学校を史跡外へ移転する。 小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。 主郭地区試掘調査開始（第１～４次調査） 主郭地区発掘調査開始（第１～１０次調査）

付表２：織田信長天下統一への過程と城郭

年　代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治　元年（1555）	22 歳	清須城入城	清須城　：石垣なし	×
永禄　３年（1560）	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄　６年（1563）	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄１０年（1567）	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城（千畳敷） ：巨石石積	改修
天正　４年（1576）	43 歳	安土城築城開始	安土城　：総石垣	○
天正１０年（1582）	49 歳	本能寺の変		



石垣列A、B
西側尾根曲輪からの登城路

図２　『小牧村古城絵図』に今回の調査成果を反映させた図面

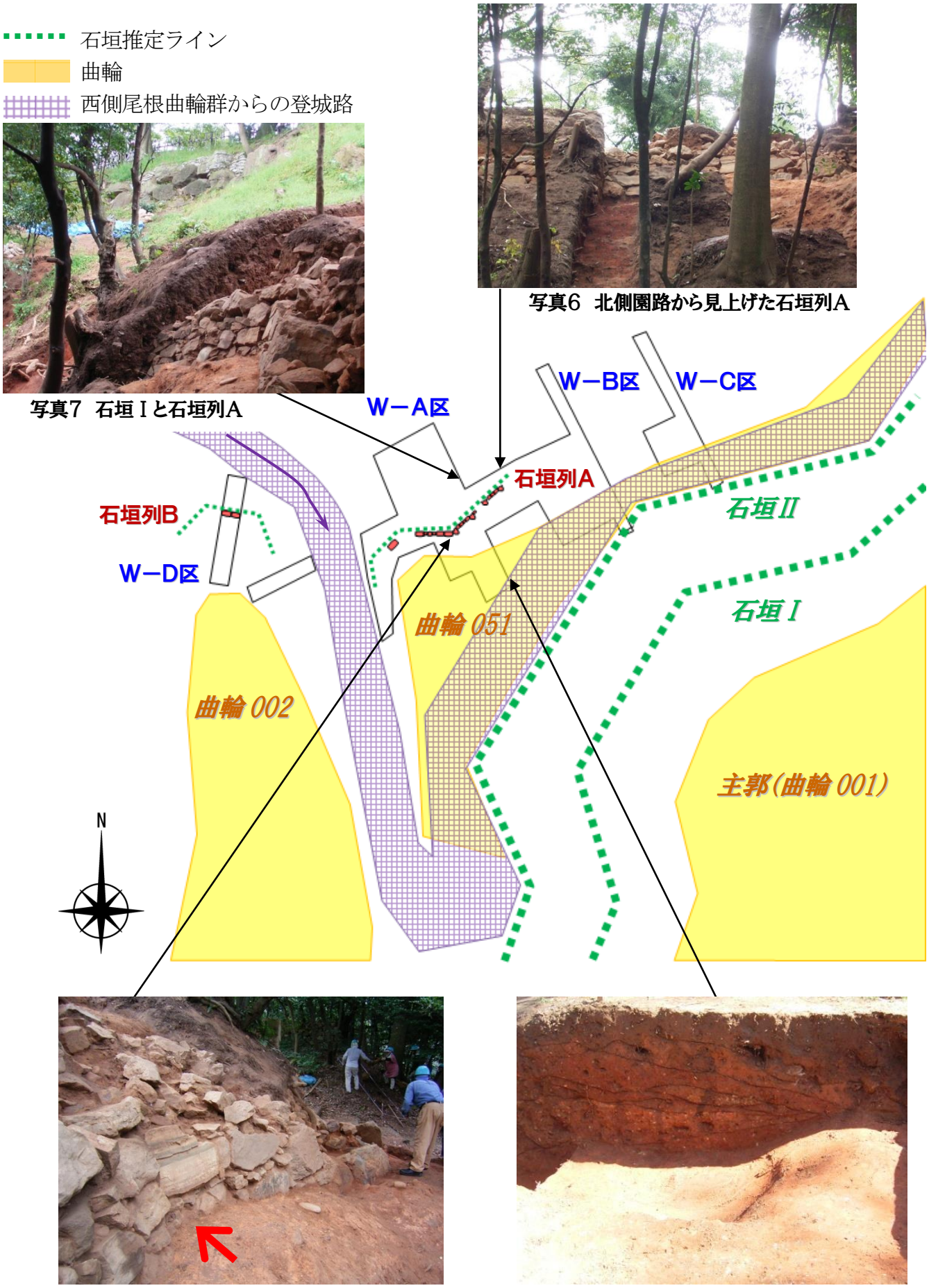


写真6　北側園路から見上げた石垣列A

写真7　石垣Ⅰと石垣列A

写真8　石垣列Aの入隅部(矢印が屈曲点)

写真9　曲輪の造成を示す土層(W－A区)

図３　W区　遺構略測図（縮尺は任意）

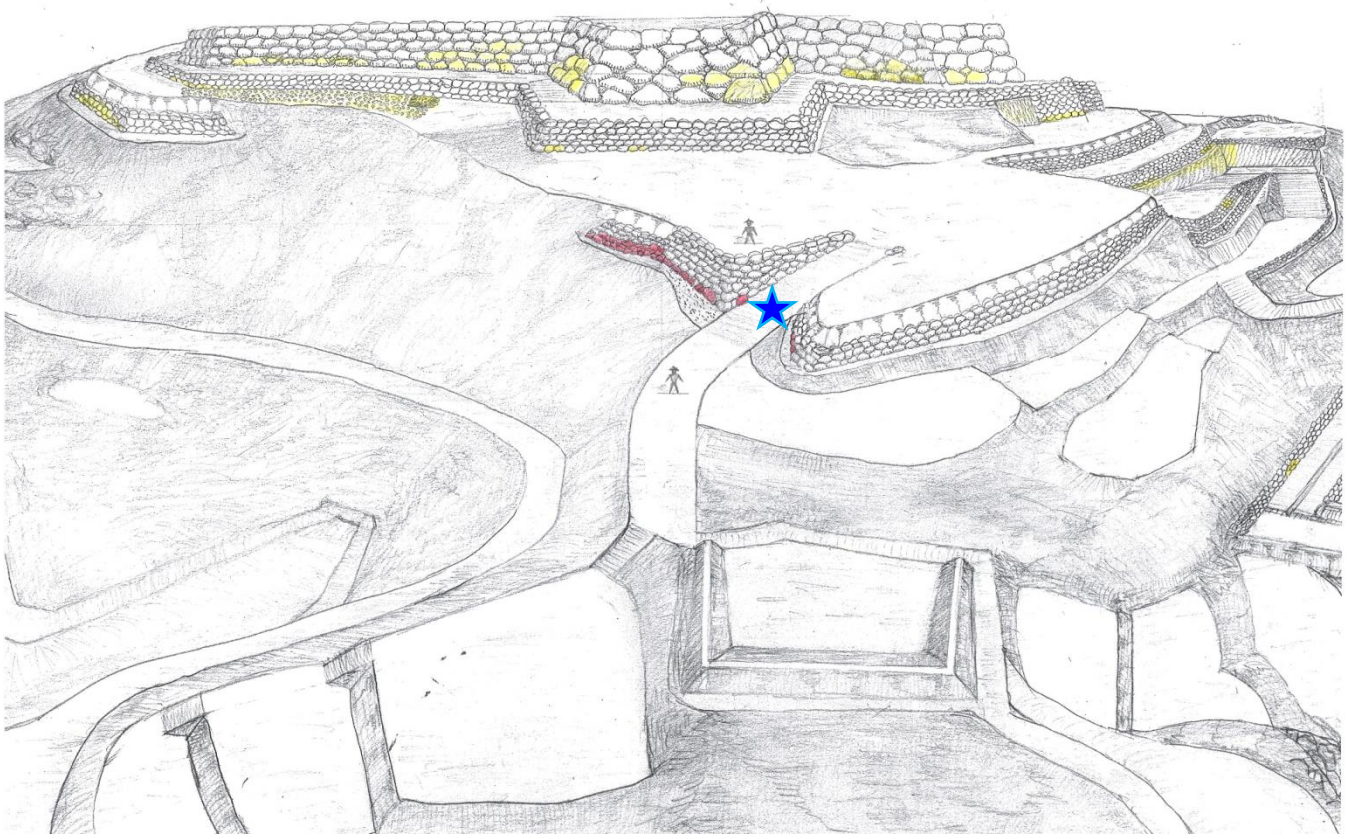


図４　小牧山城山頂周辺推定模式図（西から）

※　今回の調査で確認した石垣を赤色、これまでの調査で確認した石垣等を黄色で表示

もしかしたら ★ では当時こんな光景が…？

（門などの建物は今回の調査では確認できていません）